

**双葉町復興町民委員会 復興産業等拠点部会
ワークショップ 第5回 報告書**

- 日時 平成27年12月8日(火) 13:00～16:00
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
- テーマ 「部会最終報告書の取りまとめ」

■部会の流れ

1. 「I. 部会の目的」～「IV. 基本的な方向性 (A) (B)」について
 - ①事務局説明
 - ②意見交換
2. 「IV. 基本的な方向性 (C)」について
 - ①事務局説明
 - ②意見交換
3. 全体討議
4. 決定
5. 取りまとめを終えて (感想)

■報告書に関する指摘事項等

IV. 基本的な方向性

(A) 双葉町復興まちづくり計画（第一次）に基づく事業計画（実施計画）に記載されている取組（町内での取組）

2. ふるさとへの帰還と双葉町の再興に向けた取組

- 「できることを早くやる。除染や中間貯蔵など。これは開拓だ。」(P8、19行目)については、除染や中間貯蔵が開拓かのように感じる。このような趣旨の発言ではなかったはずである。また、中間貯蔵の単語があると、この部会が中間貯蔵を推進しているように読めてしまう。
→「中間貯蔵」は削除し、「除染などできることを早くやる。」とする。「これは開拓だ。」については、次行に別項目とし、「双葉町は新たな開拓だ。」という趣旨の文章を、部会長と事務局で調整し追記する。

(B) 双葉町復興まちづくり計画（第一次）に基づく事業計画（実施計画）に記載されている取組内容（町外での取組）

町民一人一人の生活再建の実現に向けた取組

- 「放射線に対する思い（感覚）」(P9、15行目)を、もう少し適切な表現に変更したほうがよい。
→「思い（感覚）」を「不安感や受け止め方」へ修正する。
- 「精神的な手当て」(P9、21行目)を、もう少し適切な表現に変更したほうがよい。
→「精神的なフォロー」へ修正する。
- 「給料をもらう」(P9、25行目)を、もう少し適切な表現に変更したほうがよい。
→「収入を得る」へ修正する。

(C) 双葉町復興まちづくり長期ビジョンに記載されている内容の具体化

1. 復興産業拠点（新産業創出ゾーン）について

■復興着手期（5～10年後）における町内での取組

- 「復興記念公園」(P10、23行目・P11、11行目)は、誤字か。
→誤字のため「復興祈念公園」へ修正する。

■中野地区・復興産業拠点のかたちについて

- （オブザーバー）「P10にまとめて記載」(P12、6行目)は、P11かP12の誤りではないか。
→P11のことであるので、「P10」を「P11」へ修正する。

2. 駅西・新市街地ゾーンのありかたについて

- 「住民を対象とする」(P15、9行目)については、わざわざ記載しなくても意味が通るのではないか。
→「住民を対象とする」を削除する。
- (担当課提案)「医療・福祉施設、商業施設等」(P15、9～10行目)の商業施設の後に「、公共施設」を追加してはどうか。
→「公共施設」を追加して「医療・福祉施設、商業施設、公共施設等」とする。
- (オブザーバー) 駅西新市街地ゾーンの整備の進め方(P16)の上段囲みの説明文については、長期ビジョンの表現そのままである。この報告書は、部会によって作成されたものであるので、部会の意見を記載したほうがよい。P15の2段落目の内容を参考に、修正したらどうか。
→「双葉町復興まちづくり長期ビジョンにおいて」を削除し、P15の2段落目の趣旨を加えた文章を、部会長と事務局で調整し差替える。

(C) を通して

- (オブザーバー)「中野地区復興産業等拠点構想図」(P13、12行目・P14、タイトル)、「駅西新市街地ゾーンの整備の進め方について」(P15、32行目・P16、タイトル)、「両竹・浜野地区復興拠点 再生可能エネルギー・農業再生モデルゾーン基本構想図」(P17、3行目・P18、タイトル)については、この部会で最終決定でないので、(案)等を付けた方がよい。
→タイトルの最後に「部会(案)」などをつける。詳細は、部会長と事務局で調整し修正する。
- (オブザーバー) 図面の色彩等については、もう少しわかりやすいよう目立たせた方がよい。
→詳細は、部会長と事務局で調整し変更する。

その他(質疑)

- 浪江町の太陽光発電計画が中止になった理由を教えて欲しい。
→(事務局) 計画では70MWの予定であったが、現実的には11MW規模でないと実施できないということになり、中止になったと聞いている。

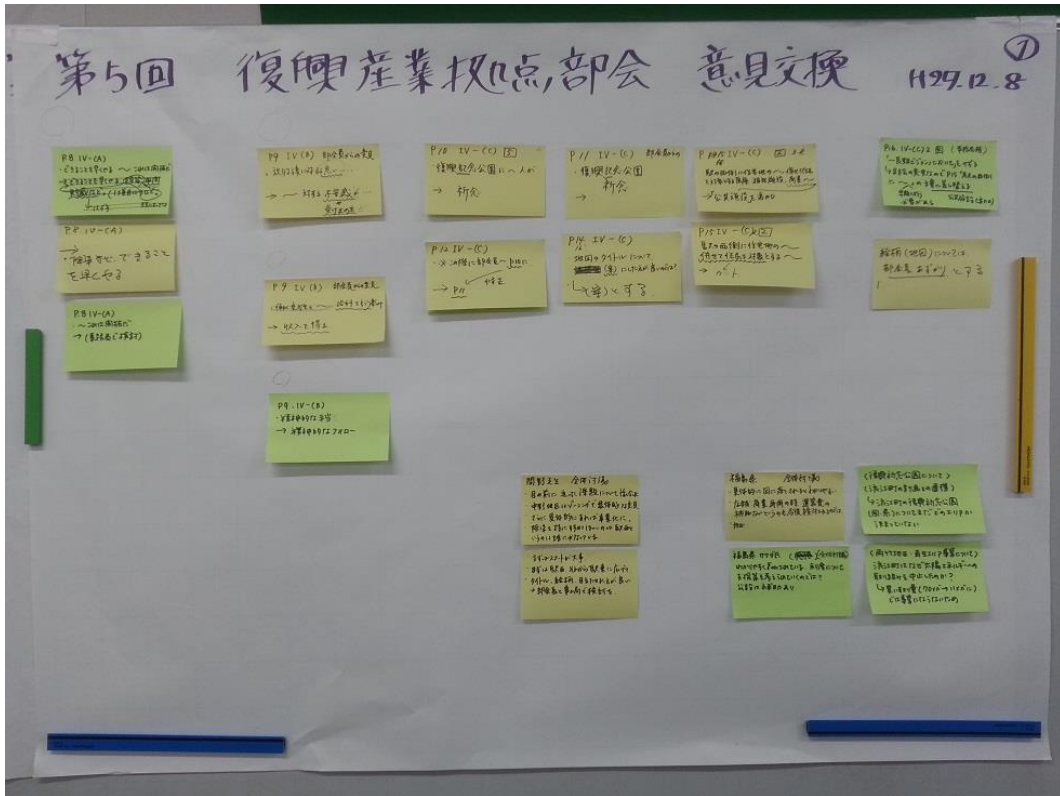
ワークショップの様子



事務局説明の様子



ワークショップの成果



◇学識経験者 間野先生からの講評

避難指示解除準備区域という最初に手を付けることができる場所で、初めに何をやるべきかを考える部会であり、当面の最も重要な課題について議論がなされた。

現在除染をしており、この除染が終われば、手を付けることができるようになる。中野地区について、具体的なゾーニングと各ゾーンの詳細なイメージがかなり確立されてきた。これをさらに具体化すれば、事業化できるところまで来たと思う。

駅西に関しても 現在は帰還困難区域ではあるが、低線量地域から除染をやらなければいけないという意見がある。国は帰還困難区域を除染しないという方針を出しているが、除染の必要性を国に突き付けていく必要がある。

そういう意味で、帰還困難区域内で一番除染を進めていきたいところが駅西というのは、非常に理にかなったことであると思う。まずは皆が戻ってくることでできる土台を作り、スタートすることが大事である。人が住んでいくと周りが変わってくる。そして、低線量地域の除染を進めて、駅西のゾーンをさらに拡大し、当然、駅東も並行して進められるようにすることが必要だと思う。

いわゆる、プログラムが出来上がって、プログラムを動かす状況が近づいてきた。よくここまでたどり着いたと思う。内容的には非常にいい成果が出来上がったと思う。

◇福島県相双葉地方振興局 沢田主任主査

実際に作成された図面を見るとイメージがしやすい。どこに何を作りたいなどなど、わかりやすく表されていると思う。

議論の中で、店舗や商業の再開するときに施設自体を再建する補助はあるが、運用コストを補助してもらえないとあった。中間報告にも同様の意見が出されていて、これから支援策も考えてられていくと思う。県の例であるが、公設民営の商業施設に対して補助している例があるので参考にしてもらいたい。

■部会員の感想

最後に5回の部会を振り返って感想を述べた。

(部会員 1)

双葉町の復興は他町村と比較して一番遅れている感じが否めません。早くしていかないと、よその町村に追い越されてしまうという感じがするので、早く復興を進めていただきたいと思います。

(部会員 2)

なかなか自分の意見をうまく言えませんでした。双葉町がきちんとした道筋で、一日でも早く元の生活に早く戻ることが一番大切だと思うので、自分も微力ですがご協力させていただきます。

(部会員 3)

今戻りたいと思っても、10年先はどうなっているかわからないと思います。これからの生活の安定を求めていったときに、双葉町に対する町民の意識が薄れていくのではないのでしょうか。若い世代が戻らないと、町として機能しないので、町役場には対策を考えていただきたいと思います。

(部会員 4)

震災後は自分の再出発だけで精いっぱい、町のことまで考えることができない状況でしたが、部会で皆さんの意見を聞いて勉強になりました。若い人が町に戻っていろいろできるように、皆さんと取り組んでいきたいと思えます。

(部会員 5)

会議では最初何を話したらよいのか迷いましたが、参加している中で自分の考えがどんどん変わってきました。最終的にこのすばらしい報告書ができましたが、絵に描いた餅にならないように、迅速に進めていただきたいと思います。

(部会員 6)

震災後、自分の会社もなかなか経営がうまくいかない状況なのに、委員になって、部会で議論できるのかなと思いました。しかし、全5回を終えて、大変勉強させてもらいました。

(部会員 7)

とても分かりやすい会議であり、いい意見が沢山出たと思います。商工会の会員は、県内・県外が半々程度で分散している状況ですが、みなさんが商店や事業所のことを考えてくれていることについて、大変ありがたく思いました。再開しているのは、ほとんどが工業部門で、商業部門はわずかです。双葉町に一日も早く戻って、商業部門も再開できるようになればと思っています。

(部会員 8)

復興は5年10年の期間ではなく、平成29年の避難区域等の再編までに、除染をスピーディに進めていただきたいと思います。また子どもたちが「双葉町は変わったな」と思えるようにイメージアップを図れば、双葉町に足を運んでもらえると思います。

(部会員 9)

町に帰れることを期待している人は少ないと感じていました。また、この部会も、正直、無駄なことになるのではないかという気持ちがありました。しかし、この会議の一つ一つが勉強の場でありました。他の町村を見ると、年配者は戻るが、若者は戻らない状況になっています。双葉町はより厳しい状況であり、復興は陰しく長い道のりですが、取り組めば道のりが少しは短縮されることがわかりました。子供たちからの学校便りなどを読むと、双葉町のことを思っていることが良く伝わってきます。私たちもがんばらないといけないし、国・県ももっとがんばっていただきたいと思います。

◇金子先生からの最後のあいさつ

5回のワークショップに熱心に参加していただき感謝申し上げます。今回、多様な町民の意見を取り入れた計画づくりを進めるために、ワークショップ手法を取り入れた。参加した皆様の積極的な発言を引き出せるよう、サポーター一同、楽しい会議づくりに努めた。また、まちづくりの具体的な姿をわかりやすく検討できるようにデザインゲームの手法も取り入れ、皆様のご協力で、復興産業拠点や駅西・新市街地ゾーンの姿を描くことができた。

これから、いよいよ双葉町の復興が始まっていく。ぜひ、町民参加のもとにワークショップ手法を使って、みんなで双葉町を再生していただきたい。

◇双葉町 半澤副町長からの最後のあいさつ

復興産業等拠点部会には、大変難しい問題を抱える中、皆様には熱心なご議論をいただき感謝申し上げます。双葉町が最も復興が遅れていること、また計画が絵に描いた餅にならないように取り組むべきなどの意見は、他の部会でも出たところである。

今回、町民目線に立った意見が多数出されたことは、ありがたかった。こうした報告書をいかに実現するかが、町の務めであると考えている。今後も国・県にしっかり要望していくこと、また町としてしっかり取り組んでいくこと、それらのことを町民に発信しながら、取り組みを進めてまいりたい。今後ともみなさまのご協力をお願いしたい。

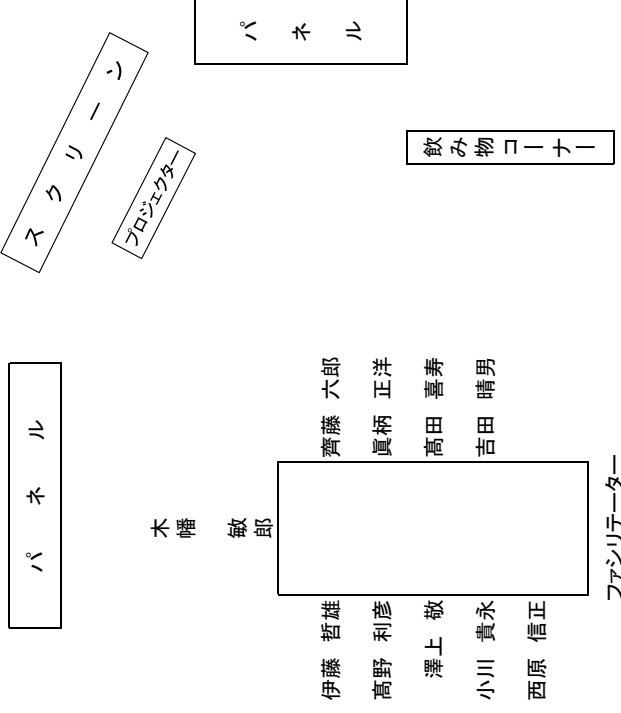
第5回双葉町復興町民委員会 復興産業等拠点部会座席表

(敬称略)

1 日時 平成27年12月8日(火)13:00~16:00

2 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室

アドバイザー	県立広島大学名誉教授 福島大学つくしまふくしま 未来支援センター特任研究員 間野 博 福島県相双地方振興局 復興支援・地域連携室主任主査 沢田 敦司 福島県相双農林事務所 企画部地域農林企画課主任主査 佐藤 健一 副町長 半澤 浩司 総務課総括参事 武内 裕美 産業建設課 主任主査兼産業係長 中野 弘紀
オブザーバー	



事務局	事務局 (復興推進課)
七電(財) 地域振興 ン源地 タ 興	鈴木 薫 米山 治介 松本 奈々 橋本 靖治 細澤 孝紀 網藏 孝紀 平岩 邦弘

受付

報道関係者 傍聴席